

平成24年度 第1回

帯広市廃棄物減量等推進審議会 議事録

(概要)

日時 平成24年7月5日(木)

午後4時～

会場 市役所10階第5B会議室

出席委員(15名)

一ノ渡 委員
大松沢 委員
角田 委員
兼子 委員
今野 委員
齊藤 委員
鈴木 委員
瀬尾 委員
惣角 委員
曾我 委員
谷崎 委員
中川 委員
福田 委員
山崎 委員
渡邊 委員

(20名中15名出席)

帯広市(10名)

嶋崎 市民環境部長
長江 清掃担当調整監
中田 業務担当課長
岡安 清掃事業課長補佐
一森 指導担当課長補佐
森田 管理係長
伊藤 ごみ減量係主査
菅原 ごみ減量係主任
生駒 ごみ減量係主任
西本 ごみ減量係主任

- ・ 嶋崎市民環境部長挨拶
 - ・ 渡邊会長挨拶
 - ・ 兼子新委員挨拶
 - ・ 新任職員紹介
- のあと議事に入る。

議事（渡邊会長により進行）

1. 平成24年度清掃事業概要について

事務局：資料1により説明

会 長： 今説明いただきましたとおり、大体はこれまでの審議会
で出てきたことですが、平成23年度で概数であったもの
が実数になった部分などありますか。

事務局： 前回2月の時には予定、見込みという段階で説明させて
いただきましたが、今回はこういう数字になりましたとい
うような形で説明させていただきました。

会 長： その時見込みであったものと、今回大きく差が出たもの
などありますか。

事務局： 特にありません。

会 長： 暫定版ということで、我々承認ということではないと思
うのですが、このあとどうなるのでしょうか。
市民に配布されるなどどのように使われるのでしょうか。

事務局： 今回暫定版という形になっておりますけれど、一部数字
がまだ確定していない部分、金額的なものですか、これ
らについて整理をし、毎年作っているのですが、市民の皆
さんに配るわけではございません。

市の財産としてこれからも残っていき、いろいろな集ま
りや会合の資料に使ったり、あるいはいろいろな会議の場
で提出するなどそういう様な使い方になろうかと思えます。

会 長： 正式版はもう少しきれいに製本されるのでしょうか。

事務局： そのとおりです。

委 員： 容器包装等資源収集実績の中で、リターナブルビンの件
ですが、業者が無くなって、これがカレットビンになると
いうお話でしたが、あらためて、引き取られる業者が現れ

ましたらまたリターナブルビンにする考えはあるのでしょうか。

事務局： こちらの、ビンの関係につきましては、資源として2種類の方法で回収されておりました、ひとつは、Sの日の計画収集、もう一つは資源集団回収の二つの流れがありますが、具体的に今、手を挙げているところがないということで、帯広市ではできないなという方向で進んでおりますけれど、仮に今後出てきた場合には、関係業者と調整を図りながら検討するという様な流れになるかと思えます。

事務局： 当然、私ども法律に基づいて仕事をしている訳なんです、循環型社会形成推進法でいけば、まずはごみを出さない、次には、再使用するという観点から、当然生きビンというのは再使用するということになりますので、カレットにして再資源化を図るよりは、先にくるもの、優先されるべきものという認識を持っております。

そういう意味では極力何とか事業協同組合さんとは調整を図って再資源化ではなく、再使用できるようにというふうにやって行きたいなと思っております。

会 長： 小型家電の回収について、試験的なのということだったんですが、実際に1年やってきて、やってみた感じとしてはどうですか。

事務局： ざっくりばらんに申し上げますと、実は、今の国会に小型家電のリサイクルについての法案が出ています。平成26年を一応実施予定としており、リサイクルに向けてやっぺいこうと。この中で国の考え方としては、市町村は回収してください。再資源化にあたっては認定事業者というものを募って国の方で認定して、その認定を受けた事業者はいわゆる廃棄物の許可の不要な形で、その小型家電については収集運搬に向けた取り扱いができるようにして行こうと考えられています。

今回出てきている国の考え方というのが、いわゆる奨励型の法律で、いろいろ地域性に応じて市町村と事業者の中で工夫をしながらやってくださいというもので、当然私どもとしては埋め立てに回るよりは何とか資源化を図って行きたいと考えています。そういう中であって正直申し上げますと、例えばSの日に分別して収集するような形になる

と、どうしても別の車を用意するような話になったり、費用負担に繋がり兼ねないので、できましたら現状の拠点回収の様な形で市民の方にご協力をいただいて、認定事業者の方に引き渡しができるばいいのかなというふうに考えております。

法律の動向を見極めて、また、皆様方からもご意見をいただきながら、どう資源化に向けて取り組むのがいいのか、検討して行きたいと思っております。

委員： 生ごみが増えているということでしたが、電動生ごみ処理機と堆肥化容器の助成、減っています。

この部分が増えて処理していただくと生ごみは減ると思います。19年度は180台で、23年度は54台しかなかったということは、ここの所の推進が少し弱かったのかなと思います。

それから、堆肥化の件につきましても皆さん随分張り切っておやりだった様ですけれども、皆さん飽きちゃったのか段々減ってきてます。

その所を進めると少し減るのではないかと思います。予算がなかったのかどうなのか。推進がどうなっているのでしょうか。

事務局： 生ごみが増えているということで先程説明した中で出たのは、夏場の関係で暑い日が続くとどうしても腐り易いものが出て、そういう意味で増えてるのかなというところで、確かに電動生ごみ処理機の助成数というのは減っている状況ですが、帯広市としては同じように助成しますよと言っておりまして、先程言ったように震災の関係で電気代がもったいない、というより電気に対する思考が削減しようとか、使わないようにしようとかいうのが少し出ているのかなということと併せて、昨年7月に地デジ化になりましたけれども、それまで、電気製品というのは家計の中ではテレビが一番優先されていたのかなと、そういったことが考えられると思います。

委員： それでも段々昨年の震災に関係なく減っているというのは、もう少し推進されると費用的にどうなのか分かりませんが、推進が少なくなってきたような感じがします。

事務局： 実は平成16年にごみを有料化した時には予算が足りなくて、予算を流用して400台近く助成をさせていただき、その後も年間200台から250台分くらいの予算を取りながらやってきたのですが、平成19年から実は予算があるにも拘わらずお申し込みが少なく減ってきております。

有料化の時点はいかにごみを出さないかという関心が高まった時期であり、そういうときにタイミングよくこういう助成があったので利用いただけたのかなと、ある程度関心が高い方々について普及していったと思われまます。ここがまさに委員ご指摘のとおりで、そうでない方々にもこういうものがある、すこしでも資源化に向けてということで、掘り起こす作業ももっともっとやっていかななくてはいけないのかなと思えます。それから、電動生ごみ処理機に拘わらず、生ごみの減量に向けてどういうふうに市民の方々にお勧めしていったらいいのかその取り組みがやっぱり今後さらにやって行かなければならない部分かなと考えているところです。

委員： 堆肥化のところもそうですね。少しみなさん飽きて来たような感じですね。

事務局： 実は、そういうところでは清掃事業課が中心ではないのですが、みどりの課などと連携を図りながら地域の中で枯れ葉ですとか堆肥化をすることでごみにならないようにする。もう一つは緑化を推進する。そういった取り組みが出来ないかということで、今年度新たな事業ということでスタートする部分もございます。

正直言いますと生ごみを地域の公園で資源化する、堆肥化できるかというのは難しいと思うのですが、色々な形で単に清掃事業課だけに留まらず市内連携しながら出来ることから市民の方にご協力をいただいて、そういった資源化に向けた取り組みをやって行かなければならないと思っております。また、清掃事業課独自としては、ここの部分についてどう皆様方に今一度関心を持ってもらえるのか、そういった掘り起こしをやって行かなければならないと思っております。

会長： 確かに流行が一段落したのでしょうかけれど、帯広市から見たときに生ごみの減量の重要度が下がってきているとい

うことではないですね。

事務局：　そうです。

会　長：　そうであれば、やっぱりいまご意見をいただいたとおりもう少し宣伝ですとか色々進めて行った方が良いかと思えますので、その辺、検討をお願いします。

委　員：　回収する車が減ったということで報告を聞いたのですが、夏場の回収が非常に遅い。9時までに出しなさいと言いながらも、黙っていると12時過ぎに回収される。それで、ごみを置く場所が自宅の前にある家は臭いが非常に気になる。そこで、お金のかかることなただけれど、夏場の場合、車でそういうものは早めに回収してもらいたい。冬になるとある程度遅い時間でも臭いのないものはないと思うので、この辺、夏の場合の回収について何とかしてほしいという声があります。

町内会の中で全てとは言いませんが、多くの場合これが一番ネックになっております。みんなごみを出すけれども自分の家の所には置きたくない。これは言わなくても分かる話だと思えます。

そういう点で、夏場はどうしても燃えるごみ、生ごみの場合は何日も置いたごみを出すという実態があります。そんな点で、回収を早くするために何とか良い方法はお願いできないのかと、そういう声もあるということをお場で一応発言しておきたいと思えます。

それともう一つは、今年の対策の中にカラスに対する対策があります。近年やたらとカラスが多い。カラスはただ電線に留まっているだけならいいんですけども、これがごみを散らかすという最大の原因です。

この辺のところ、カラスについては対策だからいいんですけど、生ごみの処理について何かよろしくお願いたい。ご意見を申し上げておきます。

委　員：　関連しての意見ですが、生ごみの場合収集時間を遅らせて出すという、12時近くに回るところは大体11時からいにも出すというような形にしたらいかがでしょうか。私もずっと散歩をしながら各地域を結構歩いているのですが、収集場所でカラスが来て散らかしています。そういう場所が何か所か見受けられるので、出す時間を遅らせては

いかがかなといつも思っておりまして、考慮していただきたいと思っております。

事務局： 皆様方にはご協力をお願いしなければならないところですが、ひとつが、ある程度収集の回り方というのが決まっていて、おおよそ何もなければ大体これくらいの時間に行くだろうというのがあるのですが、それを作るとその時間に合わせて収集車が走らなければならないので現実的には中々難しい。それと休み明け、あるいは雨や雪が降った日の次の収集日、どうしてもごみの量が多く非常に時間がかかったりする。一部増車をして対応したりすることもあるのですが、違ったコースの走り方をせざるを得ないケースが出てくるといったところがあります。ひとつのアイデアとしてはバスの時刻表の様に各ステーションに一定の時間を設けその時間に市民の方が出し、その時間に合わせて収集できれば、そういった問題の解決にはなるのかも知れませんが、正直申しあげて現実的には難しい。もう一つ、出す側の市民の方にとってもやはり共働きの方もいらっしゃるでしょう。12時回収だから12時まで待ってごみを出してから用足しに行けるかということ、皆さんがそう出来る訳ではない。結局そうすると一定の時間までに出していただいて収集するしかないのかなと考えているところです。

もう一つ生ごみにつきましては、皆様方にご協力をいただくという面では新聞にくるんでしっかり袋を縛っていただくというお願いをする中で、ご協力を求めて行くというやり方しか正直申しあげると今の時点ではお答えのしようがないのかなと思っております。ただ、もう一方ではカラス対策の話が先程出ました。後程説明をさせていただきますが、行政としても全く何もしないということではなくて、皆様方からいただいた色々なご意見を活かして今年度新たな取り組みということでやっておりますので、その取り組みに活かしながら対応していかせていただければと今の時点ではそう考えております。

会長： 中々難しいということで以前も話題になったかと思えます。我々、ごみを出す側、市民の側からすると気になることではありますので、できるだけ早く回収できたらという

ことで市の方でもご努力いただきたいと思います。

2. 平成24年度清掃関連予算と主要事業について

- ・事務局：資料2により説明
- ・事務局：カラス除けサークルについて説明（展示）

事務局：（カラス除けサークルについて）今、100基の予定で製作し、6月の中旬に終わりました。順次町内会に設置して実験の協力依頼をするということで進めております。

会 長： 今は試験的使用状態だから多分町内会にお金は出させてないのですね。

事務局： 帯広市で設置している部分についてはそうです。

会 長： 将来、実用化の暁には見通しとしては町内会ごとに用意してもらおうということですね。

事務局： いくつかの町内会に1つ2つ広報活動用に設置していただいて効果を実感してもらい、これを呼び水に、他のステーションは町内会費や資源集団回収で得た収入でこれを作って、もしくは買ってもらって設置していただくというふうに考えております。

事務局： 材料費は10枚ものですが、帯広市では今回障害者授産施設の方に製作を依頼しております、一基4,000円で製作してもらっています。

材料の中で一番高いのは黒い部分（あとは全部100均で揃えたんですが）これだけがホームセンターなどの類の店でしか扱っておりません。この部材は農業用とか工業用で、暑さ寒さにも強いということで使っているのですが、ただネットが下までいってるのであればこれがなくても大丈夫かなという感じはしますが、最近のカラスは共同作業でネットを捲るというケースがかなりあるので、やはりここは必要かなという感じはしております。

会 長： これは、中から漏れないためということではなく、カラスを防ぐための物ということですか。

事務局： カラスに突つかれないためのものです。

事務局： どうしても柵目が大きいとカラスは嘴で突ついて差し込んだりするので。

委 員： ゴミュニティメールのご案内は町内では大変助かってお

ります。しかし、もうちょっと物を洗うというところに力を入れた編集をお願いしたい。ビンも缶も。全部洗って捨てるという人は10人に1人くらいかな。缶コーヒーなどすごく汚い。それからビン類でもほとんど洗わないでそのままSの日に出します。私たちはリサイクル活動で分別するのですが大変汚いです。夏場は特に汚いです。文書には洗ってとありますが、もっと大きく赤い字で書いて、必ず洗うという癖をつけて出していただくようにしたら良いと思います。

私たちの町内では必ず洗わないと資源としては扱われませんよと言っているけど、町内ではほとんど浸透しているけれどもマンション関係からはそういうことが分からないからそのまま出される。このメールについては年2回出してもらってますが大きく「物を洗って資源活用」とかそういう面でPRをお願いしたい。要望です。

会 長： 出し方について大事なところをもっと強調して伝えてほしいということですね。これは是非よろしくお願いします。

3. その他

委 員： ちょっと外れるかも知れませんが、先程の夏場の生ごみの臭いについてなんですけど、食べ物と間違ったり、リスクもあるのですが、冷凍して一時的に保存して、例えば月曜日が収集日であればその日まで冷凍しておいて、朝になったら出すというようなそういう方法もあります。冷凍室に入れると思えば小さくするし、新聞に入れて袋に入れて、出す日を頭に入れておいて、そうすれば自分の家も臭わないし、出しても臭いが発生しないし、そういう方法もあります。

会 長： そういうちょっとしたアイデアというのが色々あると思いますから、そういうのも色々どこかから出てくるようでしたら、広報に出すとか、そういうこともあったらいいかと思います。

委 員： 小さいネタなんですけど、最近テレビなんかでもよく紹介されているものなのですが、ペットボトルの口に鉛筆削り、鉛筆を削るアタッチメントを取り付けて削り、空のペット

ボトルの中にどんどん削りかすが溜まっていくという、そういうものが流行りつつあるようです。

会 長： ペットボトルの口にちゃんと合うのですか。

委 員： ペットボトルのスクリーキャップを外してそこに鉛筆削りをねじ込める、恐らくペットボトルごと捨てることになるとは思うのですが、可燃ごみとして燃やすのがいいのか置いておくのがいいのか。何れにしてもそういうのが出てくるのかなと懸念はしております。

委 員： ビンとか缶を洗うというのは衛生上の問題から進めて行かなければだめだと思います。

回収するから洗ってというのではなくて、置いてある時の腐敗臭とかが出るから洗いましょうみたいな、少し切り口を変えてお話してみたらどうでしょう。

会 長： そうですね。手間のかかることほど理由がはっきりしての方がやり易いですね。

委 員： 衛生ということで、食中毒予防だとか、衛生面を切り口にして洗ってくださいというふうにして、回収するから洗ってよというのではやりたくないよとなりますから、ご自分の健康の為になるのだよという感じでおやりになったらもう少し変わるかも知れないと思います。

事務局： 委員の仰られるとおりだと思います。

元々ごみの収集をしているのは何故かといったら、公衆衛生であり、環境の保持ということなんです。

その観点から言ったらごみ出しのところから既にそれは始まっている話で、皆様方に同じご協力をお願いする時でも委員の仰られるとおり地域環境を守っていくんだよ、衛生を保持して行くんだよという所で、きちんと洗って出しましょうというのは必要なことだと思います。

委 員： 切り口に拘るのは行政の都合のように聞こえるから、その切り口を一遍変えられたらどうでしょうか。

事務局： それぞれ出す市民の方々の立場、目線に立ってお伝えすることで伝わっていくのかなと思います。

委 員： そうすると洗っていただけるということで進むのじゃないでしょうか。

会 長： 先程のペットボトルの鉛筆の削りかすについてはエコな様な、エコでないような、実際に出てくるようになってき

たらどのように対応していったらいいのか考えて行かなければならないのかも知れないですね。

もう捨てられている例ってありましたか。

委員： 今のところはまだ見てません。

会長： ごみの問題というのは世の中全体の問題だから色々出てきますね。出来ることは検討いただきたいと思います。

委員： 資料2枚目のごみステーションに出すことが困難な世帯に対しごみの戸別収集をしているとあるのですが、それはごみステーションに行かれる同じ車で回収しているのでしょうか。もし同じ車でしたら回収を区分けすることで時間短縮出来ないかと思ったのですが。

会長： 今どのようにやっているのでしょうか。収集に行く車でやっているのですか。

事務局： どうしてもお身体が不自由とかでごみステーションまで持って行くことが出来ない人、ごみステーションまでは持って行けないけれど家の前までなら出せる人、色々ケースはありますけれど、そういった中で、ひとつは収集車、それぞれコースを回ってますけれど、何とか玄関の外までは出せるという世帯に対しては収集車の方で回収しているというケース。

もう一点は何とか玄関の中までは出せるけれど、そのご家族の方から、1人暮らしなので声掛けをしていただきたいというご希望もありまして、安全安心の面できめ細やかな対応をしていくということから別途指導係の方で訪ねているという二通りの方法でさせていただいております。また、収集車もどこまでも行けるわけではありませんので、コースから離れているところなど、指導係で対応している所もあります。

会長： サポート収集することによって遅れが生じているケースもあるのですか。

事務局： 時間は多少は余計にかかりますが、何とか対応している状況です。

会長： 独り暮らしのお年寄りの安全安心の為の声掛けというような役割、これは大事な役割ですね。ただ、ごみ収集(担当)がやるべきことなのかということと難しいですね、いいことですけれど。

事務局： 3月末の数字ですが、サポート収集を行っているところが247件あります。

その内、収集車でやっているのが64カ所、これについてはごみのコースに比較的近い家を対象にということにしておりまして、遠いところや4～5階建てみたいなマンションもありますから、そういった所は収集車では行かないで、別途、私ども指導係で回収に行っている家が183件あります。

指導係の戸別収集の場合のみ声掛けをしているという現状で、その中でも逆に声を掛けられたくない方も当然おりますからご家族も含めて声を掛けてもらいたいという人が125名いらっしゃいます。

会長： これは福祉の方と連携しているのか、それとも全く別でやってらっしゃるんですか。

事務局： 現実の問題として連携してはおりません。

折角行くんだから相手が声を掛けてほしいということであれば、玄関の前まで最低でも行っておりますので、チャイムを鳴らして「元気ですか」というようなことで対応していると、こういったところです。

ただ、全く連携していないということではなくて、対応のヘルパーさんから話を伺うとか、サポートを始める段階でケアマネージャーの方も含めて打ち合わせをして、進めております。

事務局： ちょっと補足をさせていただきますと、会長さんからもお話ありましたけれども、この事業を福祉の観点でやるのか、ごみ収集でやるのかという所で申し上げますと、独り暮らしの高齢者なんだから福祉の観点からごみの方で全部やりますよということには中々なりえない。元気な方がたくさんいらっしゃいますし、元気でごみだし出来ることが何よりです。ただ、それが残念ながら叶わない方についてはお手伝いをさせていただく。お手伝いをさせていただくにあって単にごみを集めるだけでなく、折角行くんだからお声掛けもさせていただこうと、当然相手のご意向も確認したうえでということを進めさせていただいております。また、スタートしてから特に平成21年度、指導員が収集班、サポート事業の専任班ということで人数を増やし

て対応するように変わってきているのですが、その際には介護保険課と連携を図って、ケアマネジャーさん達と話し合いを持たせていただいて、こういった形で進めたら良いのかご意見や情報提供をいただいたりしながら進めて現在に至っております。

限りある人員の中で、ご本人、ケアマネさん等含めてお話を伺った上で収集車が対応するか、戸別に対応すべきかなど決めさせていただきながら、できる限りお応えしようということを進めておりますが、ご本人が十分対応出来ると思われる場合や元気なご家族の方が同居されているというケースについてはサポート収集の対象にはなりませんということでお断りすることもあります。ただ今後とも大事な事業と位置づけておりますので、何かありましたらまたご意見等いただきたいと思います。

会 長： そういう時代になったんですね。

次回の開催につきましては来年の2月を予定しており、審議会が近づきましたら事務局のほうから案内文を送付いただけるということですのでよろしく願いいたします。それでは、以上をもちまして審議会を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。

～ 終了 ～